



お米の気持ち

桐生市立川内小学校 3年

岸 夢 月

ぼくは、川内小学校、三年一組十九番の岸夢月です。ぼくは、今からお米になって、のこされたお米の気持ちを考えてみたいと思います。

「へ～んし～ん、ライス！」

あ、あ、あついなあ。そうだ、ぼくは、今たきあがったあつあつほかほかのごはんにへんしんしたんだ。さあ、いよいよしゃもじですくわれ、ちゃわんによそわれる時がきたんだ。ぼくは、だれかに食べてもらえるこの日を楽しみにしていたんだ。ガチャン、すいはんきのふたがあいた。うわあ、まぶしいぜ。その時、この家のお母さんと子どもたちの声がした。

「うわあ、おいしそう。ごはんよそうから早くきて。」それと同時にしゃもじがぼくたちの間にわりこんで入ってきた。うわあ、つめたい！！ぼくのせなかがおちゃわんにぴったりとくっついた。次から次へとなかまの米つぶたちがぼくの上ののってきた。みんなの顔は、食べてもらえるよろこびで、つやつやとしていた。ちゃわんの中に入ったぼくたちは、がっちりスクラムをくんだ。

「それでは、いただきます～す。」あ、くすぐったいよ。おはしが入ってきた。なかまがはしですくわれて口の中のトンネルに入ってしまった。さあいよいよぼくの番がきたぞ。はしがぼくのおなかのよこをすりぬけた。なかまは、上につれていかれたのに、ぼくは、せなかがちゃわんにくっついて、とりのこされてしまった。まわりを見るとあと何つぶしかのこっていない。ぼくはあわてた。食べてくれー。

「ごちそうさま。」と子どもの声。うそつくなぼくがのこっているじゃないか。ジャーと水の音が聞こえた。ぼくは、きょうふでかたくなった。ながされるー。その時、

「もう！ごはんつぶのこってるじゃない。」

お母さんが指でつまんでぼくを食べた。ふう。